

## 1993年度・経過及び総括（案）

### [1] はじめに

今、自衛隊の海外派兵・小選挙区制の導入策動・大企業本位の不況対策・社会保障制度の全般的改悪……と、くらしと民主主義・平和が後退し、憲法が制定以来の最大の危機にあります。

このように逆流を強める政府・資本からの攻撃に立ち向かい、常に運動の先頭にたってたたかってきた全労連・愛労連は、客観的にみて大きな役割を果たしていることは間違いありません。私たちは階級的ナショナルセンター・ローカルセンターを結成し、奮闘してきたことの正しさと、運動への確信を持つことを、改めて確認しあう必要があります。

その反面として、「連合」が、総選挙で「連合」の運動を凝縮したものとして象徴的に示したように、アメリカべったり・大企業本位の自民党政治の延命のために果たした重要な役割は、「連合」が、何のためにつくられてきたのかを、改めて労働者・国民の前に姿をさらしたものであることをしっかりと見極める必要があります。

これからの日本を「いのちとくらし・平和」を視点におきながら展望したとき、年金制度の改悪をはじめ多くの課題が山積しています。今の、全労連・愛労連の運動についてうまいことを言った人がいます。「2トントラックに10トンもの要求・課題を積みこんだ過積載の状態をみんなで支えながら、必至になって要求実現にむけて走っている状態だ」と。それでも期待に応じて、オーバーヒートしてエンストしないように基礎力量を高め、単産・単組・地域労連の力を結集して運動を発展させていかななくてはなりません。

愛労連が結成されて4年。要求は前進しています。組合員は着実に増加しています。素晴らしい沢山な経験もこの4年間で蓄積してきました。克服すべき問題点も明らかになってきています。これからの一年、とりくむ要求・課題のそれぞれの運動のなかでこれらの教訓を生かし、全労連・愛労連運動の飛躍的前進をかちとるためにともに奮闘しましょう。

## [II] 人間らしく生き・働くために・労働条件の改善をめざすとirikumi

### 1. 国民春闘構築の土台築いた愛労連春闘

#### (1) 大幅賃上げで国民本位の不況打開を打ち出した93国民春闘

93国民春闘は、全労連・愛労連としてはじめて不況下でたたかった春闘でした。全労連として昨年の年末闘争からとりくんだビクトリーマップの運動を本格的に国民春闘で提起し、「大企業の内部留保の一部で大幅賃上げは可能」「大幅賃上げで国民本位の不況打開を」と世論に大きく訴えました。

また、愛商連とはじめて春闘で共同闘争をおこない、今後の国民春闘構築への貴重な経験となりました。

#### (2) きびしい状況のなかで積極的なたたかいが展開された春闘

はげしい不況化のもとで、日経連・財界による「賃上げか雇用か」「賃上げゼロ」攻撃、リストラによる合理化攻撃がはげしくおこなわれるなか、賃上げでは積極的な要求をかかげ、各単産・大産別などでビクトリーマップの運動にとりくみました。愛知春闘共闘の賃上げ結果は、6月1日現在で前年比・額で-2,299円、率で-1.32ポイントの11,070円、4.40%となっています。時短など労働条件の改善では30組合で休日増などの成果をかちとることができました。

春闘共闘・全労連の提起した統一行動は、2月12日の「不況打開・中小闘争デー」、3月5日の集会、3月13日のトヨタ総行動、3月17日の統一行動、3月20日の春闘・市長選勝利決起集会、3月26日の不況打開総決起集会、4月7日の統一行動などや、JMIU、医労連、全国一般、運輸一般、全動労などがストライキで決起し、大産別では公務共闘などの宣伝行動をはじめとしたさまざまにとりくみがおこなわれました。

また、全国一般では3月12日回答促進の要請行動に官公労の仲間が参加し93春闘におけるとりくみの典型となりました。

#### (3) 政治・経済両面での大企業本位の枠組み打破をめざした春闘

93春闘は名古屋市長選と時期が重なり、春闘も市長選も勝利をめざしてたたかいました。大企業が労働者を犠牲にして、ポロ儲けをし内部留保をため込

むという大企業本位の経済的枠組みを打破するとともに、政治における大企業優遇の仕組みを国民本位に変えさせるたたかい、労働者・名古屋市民の要求を実現する絶好の機会として名古屋市長選挙を位置づけてたたかいました。

愛労連は名古屋市長選挙で革新市政の会の労働者選対の中軸として活躍し、労働者全体を視野にいれてのたたかいを重視しました。名古屋市内の地域労連は重点的に名古屋市長選にとりくむとともに、名古屋市外の地域労連も積極的に支援にとりくみました。愛労連にとって経済闘争と政治闘争の結合は常に重視すべきで春闘と選挙闘争という集中的なとりくみを結合させるというきわめてむずかしい課題への挑戦でした。

一部の単産で、春闘と名古屋市長選を結合してのとりくみがなされましたが不況下でのたたかいの影響のもとで、全体としては充分結合されないとりくみとなりました。名古屋市内の地域労連は地域の要求や名古屋市民の要求を実現する立場で行政区の革新市政の会の一員として積極的な役割を果たしました。

#### (4) 93 国民春闘での前進に確信をもち、国民春闘の本格的構築をめざして

全労連春闘がマスコミでも取り扱われ、連合と全労連という対比で春闘が報道されました。ローカルでも、連合愛知と愛労連または連合愛知と全労連という対比で報道されたことは、今までにないことであり、大衆的に目に見える春闘の構築にむけての一段階を画しました。

組合員の切実な要求を実現するという点では、「きわめて不十分な」結果でした。しかし、県労働部、愛知県経営者協会調べなどと比較して4年連続上回ったことは、春闘共闘・愛労連のたたかいの成果といえます。また、愛商連との共同闘争、トヨタ総行動、統一行動、ビクトリーマップのとりくみ、地域春闘、官民一体のとりくみ、要求アンケートや未組織アンケートなどの点で前進がみられました。また、2月段階からの「早い立ち上がり」と最後まで「粘り強いたたたかい」をすすめました。

そして、全労連・愛労連のたたかいにより国民春闘の本格的構築をつくりあげるための課題も明確になってきています。

##### ①全労連が提起しているビクトリーマップの運動を中心にすすめること。

いくつかの大産別・単産・単組でビクトリーマップを活用したとりくみがおこなわれました。このとりくみを発展させ、愛労連、各単産・地域組織でのとりくみを強化することが必要です。また、ビクトリーマップの活用の仕方について工夫する必要があります。

②国民春闘の名にふさわしく、国民的要求・課題をかかげ、国民的規模でたたかうこと。この点で愛商連との共同闘争をさらに発展させるとともに、国民的・県民的な要求・課題の整理を愛労連以外の労働組合や民主団体などと共同してつくりあげていく必要があります。

③要求を引き下げ、低額相場を押し付ける連合・J C路線の反労働者的な役割と、それと対象的な全労連・愛労連の積極的な役割を明らかにすること。

大企業でのビクトリーマップによる宣伝行動が好評で、マスコミでも不況下の雇用調整で「問われる労使協調」「労働者守れぬ労組」（「朝日」2月15日付）と報道されるなかで、連合職場への宣伝活動をもっと重視していく必要があります。

④愛労連の組織の拡大と、全組合員参加の運動づくりをすすめること、当面10万愛労連の建設を早期に実現すること。学習活動の強化や、要求づくりから決着に至るまでの全組合員参加をかちとること。

## 2. 夏季一時金のとりくみ

回答・妥結平均は552,270円、2.38カ月に。夏季一時金の回答・妥結状況は7月13日現在、全体の約8割にあたる174組合に回答が出されうち156組合で妥結、回答・妥結の単純平均は552,270円、2.38カ月となり、昨年最終547,772円、2.35カ月を額・月数とも上回っています。また、中央の春闘共闘の集約（7月6日現在）は803,508円、2.66カ月となりました。連合の集計（6月28日現在）では単純平均で634,603円、2.51カ月、加重平均で704,012円、2.56カ月と額では単純平均・加重平均とも昨年より0.1%減となっています。日経連の最終集計では、加重平均で737,363円で昨年より0.92%の減となっています。

愛労連での主な回答は、川本製作所（J M I U）840000円・3.132カ月、日本IBM（J M I U）1378990円・3.7カ月、豊南商事（運輸一般）800000円、伊勢湾海運（全港湾）696722円、東海銀行3.3カ月、銭高組（建設一般）1150000円・3.5カ月、名古屋証券取引所（全国一般）1252557円・2.79カ月+1万円、帝国データバンク（全国一般）970000円、日本アクリル902500円・2.77カ月、織研新聞（全印総連）926869円・2.45カ月、名勤生協労組（生協労連）480043円・2カ月、ニチバン労組869939円・3.02カ月+1万円などです。

### 3. 国鉄闘争のとりくみ

不当労働行為をやめ、解雇を撤回し、職場へ戻せと、10月13日には白川公園で「国鉄フェスタinあいち」を開催、1万人が参加しました。

愛知での1000万署名の到達状況は、89,039人(5月28日現在)でした。争議団・家族の生活保障も含め、「全動労争議団を勝たせる会」の会員拡大、物資販売などの支援の強化が求められます。

### 4. 地労委の民主化を求めるとりくみ

地労委の労働者委員の「連合」7人の独占を許さず、愛知県知事の偏向行政をただす裁判闘争に、傍聴や闘争カンパを引き続きとりくみました。

世論を高め、公正な選任を勝ちとり、地労委の民主化をすすめることが必要になっています。

### 5. 諸争議の勝利をめざすとりくみ

(1) 19年の長きにわたった中電人権争議は、裁判闘争の強化とともに、話し合いによる「自主解決」をめざし、全力をあげてたたかいを。5月19日には早朝の宣伝行動、昼休み集会・デモ、中電への要請行動と座り込み、裁判傍聴などを展開しました。夜の港湾会館での決起集会には1000人が参加、原発建設反対や公害反対・あおぞら裁判の運動とたたかいの輪を広げ、争議解決への展望を示しました。支援共闘会議結成後、運動が着実に前進の方向を示していることは特徴的です。

(2) 日立の横暴を告発する愛知県集会を10月20日に開催。実行委員会は愛労連、尾東労連、全国一般、日立労働者有志で結成。19日には愛知でも3名・全国で19名が地労委に「差別是正」の救済申請を提出しました。

(3) ユニオンショップを理由に解雇された名海運輸争議は、地域の支援を柱に、署名や会社包囲行動をすすめ、1年で4人の職場復帰を勝ち取りました。勝利解決記念として、愛労連に「旗」と「ビデオカメラ」「労働判例大系」が寄贈されました。

(4) 先代社長も率先しておこない、長年慣行となっていた「げんこつ行為（従業員が住民から直接依頼を受けて浄化槽の清掃、し尿汲み取りを実施し、謝礼を受けとる行為）」を理由に運輸一般組合員4名を解雇してきた扶桑クリーン争議は、地裁、地労委でたたかっています。地裁「仮処分」では6月30日に不当にも「却下する」決定をだしましたが、この不当判決に対し、すぐに「抗告」を申し立て、たたかいを継続させています。地労委では、第5回審問（7月26日）まですすみ、次回（9月10日）を最終審問日に予定しています。

厳しい状況はあるものの組合つぶしを狙った解雇を撤回させるため、地労委への団体・個人署名を展開しています。

名古屋アサノ運輸は、4月の6名の嘱託雇用者に対する解雇に引き続き、7月13日、18名の組合員全員に会社解散にともなう解雇を通告しました。セメントメーカーのリストラ（生コン輸送形態の見直し）とからんだ組合つぶしの偽装倒産であり、7月22日、地労委に「不当労働行為救済」申し立てをしています。大企業の横暴による下請け労働者の首切りを許さないたたかいを、背景資本にむけ展開しています。

(5) 92年7月30日に解雇された、福保労・かもめ分会の星野保母が申し立てていた仮処分申請に対し、名古屋地方裁判所は4月5日、「星野保母の解雇は無効」との仮処分決定をだしました。「仮処分に従い星野保母を職場に復帰させること」の団交にも、園側は「職場復帰は認めない」との態度に固執。父母との丁寧な懇談会や、門前でのビラ配布・就労闘争に加え、1年を超えるいま、新たな対策を検討中です。

道徳たけのこ共同保育所分会の藤原保母が労災認定闘争で勝利しました。

(6) 渡辺除名処分を撤回させる裁判は、被告側（全港湾中央）の門前払いの主張を退け、6月10日の第10回法定から亀崎中央執行委員長の証言を開始、本案審理がはじまりました。中央執行委員会終了後、全員で傍聴参加をするなど相手側の対応も厳しくなっており、傍聴参加や「撤回させる会」の会員拡大などで相手側を圧倒するとりくみが求められます。

#### <まとめ>

人間らしく生き、働くためのとりくみにとって、賃上げなどのたたかいとともに、時短など労働条件の改善や、職場の民主化は重大な課題です。

春闘総括でもとわれた世論喚起の宣伝活動は、大企業職場に働く労働者に大きな激励を与えるなど、一定の役割をはたしたものの、未組織労働者を含めた県民全体への働きかけをみれば、ビクトリーマップの活用がそれぞれの単産・地域の独自努力に委ねられた弱点もあります。

全労働者の課題と位置づけられ、全労連の臨時大会も開かれた国鉄闘争、労働行政の民主化を求め、裁判闘争にうってでた地労委闘争、過労死を生みだすほどの労働強化を規制し、人間としての尊厳をとりもどす労働時間短縮のたたかいなど、方針通りの運動、それを保障する財政措置の確立・徹底がいよいよ求められる状況にあります。

### 〔Ⅲ〕国民のくらしの向上と大企業の横暴の民主的規制をめざすたたかい

#### 1. 大企業の横暴を民主的に規制するたたかい

(1) 2月12日の「労働者・中小業者不況打開93国民春闘勝利愛知総行動」は大企業で働く労働者との共闘だけでなく、はじめて愛商連など中小業者との共同行動として、主要ターミナルでの県下いっせい宣伝行動や、新日鉄・石播・中電など大企業労働者へむけての宣伝行動に、県下170カ所・1000名が参加、地域労連や民商・争議団との共同行動が大きく前進しました。

不況打開を求めての関係官庁への要請行動は、県実行委員会・地域・争議団合わせて41カ所で展開、愛知県（経営安定資金・金利0.3%引き下げ）など要求を前進させました。業者との共同を組織的な行動でおこなった歴史的なとりくみの第一歩の成功は、参加した労働者を大きく励ましました。

(2) 2月21日の第10回トヨタシンポジウムに続き、3月13日・第13回トヨタ総行動。早朝3工場の宣伝行動には160名、決起集会に800名が参加、空からもセスナ機で「春闘勝利・大企業の横暴規制」をよびかけました。

トヨタシンポは、「バブルのもうけを労働者・下請企業にまわせ」をスローガンに、不況の打開を正面に据えたシンポとなりました。報告では労働者・下請け業者・地域経済の実態が具体的に報告され、トヨタの利益第一主義の「醜い姿」が浮き彫りにしました。

(3) 第64回メーデーは、「連合」が昨年から屋内での式典に変更したなかで、たたかうメーデーの伝統を継承。名古屋市長選などで準備の不十分がありながらも白川公園には、約13000人が参加しました。また、県下各地でも豊橋(800人)、安城(800人)、瀬戸(280人)、一宮(250人)、春日井(400人)など昨年につづいて地域メーデーがおこなわれ、今年初めて江南(250人)でも開催されるなど前進をつくりだしています。

中央メーデーで今年から始められたデコレーションコンクールには、名水労青婦部の「私腹肥やす長良川河口堰」が最優秀賞を獲得しました。

メーデー前夜祭も、今年は一宮地域でも開催され、毎年おこなってきた西三河地域と合わせ、メーデーの歴史を学ぶとりくみもひろがってきています。

## 2. 社会保障の充実をめざすたたかい

健康といのちを守る愛知県実行委員会は、9月23日の総会で結成から9年に及ぶ活動を総括し、組織を発展的に解消して、社保協の「医療部会」として新たなたたかいに奮闘することとなりました。

多くの市民団体や女性の組織などによる独自の活動として、名古屋市保健医療福祉計画を検証し、提言をおこなってきている「市民フォーラム」のシンポジウムなどへの参加をとりくむとともに、医療制度の改悪や国立病院の統廃合・削減反対、看護婦確保のたたかいなどを展開。2歳児までの医療無料化を求める運動では署名活動、議会要請行動(自治体キャラバン)など、愛知社保協や愛保協など関係団体と共同をしてとりくみできました。このとりくみのなか県下のいくつかの自治体で乳幼児医療の前進を勝ちとり、愛知県の水準を上回る自治体が過半数を超えました。

年金改悪の総仕上げへ、来年早々にも通常国会での成立をはかろうとする動きがすすんでいます。全労連からの「国民署名」の提起に積極的に対応、早急にとりくみを強める必要があります。改悪内容とあるべき公的年金制度とともに、改悪をすすめる政府の狙いについてなど、学習を深め、全体の運動に広げることが必要です。

確定申告のとりくみは、愛高教・名高教・名大職組の70名が愛労連を通して集約、名古屋市職・名水労・東海共同・建設一般などで独自のとりくみがされています。



### 3. 軍拡「臨調」路線に反対し、労働者・国民の要求前進をめざすとりくみ

「国際貢献」などを理由に、政府・財界幹部は消費税の税率アップを公然と主張してきています。「消費税をやめさせる愛知県連絡会」として毎月24日を中心とした金山駅頭での宣伝行動や県・市議会への請願・要請など繰り返すとりくみでありますが、情勢によってとりくみを強化する必要があります。

国民大運動愛知県実行委員会は、10月27日～30日にかけて自治体キャラバン行動を実施。①学校5日制など週休2日制にともなう教育・保育要求、②金権一掃、自衛隊の海外派兵に反対、③非課税限度額の引上げ、の課題で各自治体の首長・議会議長に要請。「腐敗防止を求める」各自治体での決議採択を促進、非課税限度額引上げの趣旨を広げてきましたが、参加団体が一部に限られるなど、運動の再構築が求められます。

また、非課税限度額引上げでの県議会への請願では、名動生協労組パートの組合員が口頭陳述しましたが、自民党などの反対で不採択になりました。

#### <まとめ>

「労働者・中小業者不況打開93国民春闘勝利2・12愛知総行動」のとりくみに象徴される大企業労働者・業者との共同を大きく発展させた活動など、93春闘のなかでは、運動の歴史的な画期をつくりだしました。

継続してとりくみをすすめ、着実に前進を勝ちとってきている「トヨタ総行動」のとりくみ。社保協に結集する仲間とともに奮闘した、2歳児までの医療費無料化を求めるたたかいなど、ローカルセンターとしての役割、責任を追求してきています。

しかし、日常的なとりくみの展開が求められながら、十分な体制・対応がつけられなかった「国民大運動実行委員会」の活動など、課題の多様さに「事務局対応」に追われ、求められる運動の規模・広がりをつくりだせなかったなどの弱点も指摘されます。

国民的な運動が必要とされる「年金闘争」など、その先頭にたって奮闘が期待される労働者部隊の、全構成員を結集した運動の構築へ、幹事会の果たすべき役割が大きく問われます。



## [IV] 平和と民主主義を守り、政治の革新をめざすたたかい

### 1. 自衛隊の海外派兵阻止、憲法を守るたたかい

カンボジアPKO派遣部隊が、愛知県下の豊川、小牧、守山、春日井の施設部隊などで編成されることが明らかとなり、愛知のたたかいは全国的にも重要なたたかいとしてとりくまれました。

海外派兵阻止愛知県連絡会とともに、9・9県民集会（1000人）、9・15小牧・春日井行動（150人）、9・18守山行動（250人）、9・20豊川行動（2000人）、9・23小牧行動（150人）をはじめ学習会、宣伝・署名活動、自治体や基地への要請行動など県下各地での連日のたたかいを展開しました。

また、職場でも署名・集会・学習会の開催や反対決議、企業に対する「非協力の同意要求」などをかけ秋年末闘争と結んだとりくみもすすめました。

10月4日の京都大久保基地行動には、愛知からバス9台で参加（全国では1万人を超える集会に）、13日の全国統一行動では、県下いっせいの早朝宣伝行動をはじめ、各地域での決起集会がおこなわれました。

### 2. 核兵器廃絶・被爆者援護法制定などをめざすたたかい

6月2日平和行進が愛知入り。13日までの12日間、愛知県内を行進。核戦争阻止・被爆者援護法制定の訴えとともに、憲法改悪につながる小選挙区制の阻止を沿道の市民に強くアピールしました。

1992年8月の原水禁世界大会の成功へむけても労働組合からの参加に努力。第6の平和の波運動や、原爆組写真をロシアなどへ送るとりくみもすすめました。

### 3. 米軍基地撤去、日米安保廃棄、93日本平和大会の成功をめざして

11月21日～23日、日本平和大会が愛知県で開かれました。愛労連は実行委員会に参加、全体会・分科会の運営とともに、大会成功の縁の下の役割を果たしました。最終日の依佐美基地包囲行動は、全国から5000人が参加、核戦略化における依佐美基地の危険性をアピールしました。

#### 4. 金権腐敗政治打破と国政の革新、革新の多数派形成をめざすたたかい

(1) 佐川疑惑の徹底究明、金権腐敗政治根絶のたたかいへ、10・21全国統一行動（集会に2500人、自民党県連までデモ行進）、10・30愛知県民集会（1200人）、金丸から資金提供をうけた国会議員の告発運動、11月13日全国統一行動を中心に、全県早朝宣伝行動（ビラ6万枚を活用）などをとりくんできました。

全国と手を結んだ、この私たちの運動は、愛知県内の多くの自治体をはじめ全国2560をこえる地方議会の真相究明決議となって現れ、3月8日、ついに金権腐敗の頂点・金丸逮捕につながりました。金塊まで溜め込んだ100億近くもの巨額の不正蓄財や、ゼネコン（総合建設会社）からのヤミ献金ルートが明らかになり、国民の金権腐敗政治に対する怒りがいっそう広がりました。

愛知県では、名古屋市長選の大きな争点としてもとりくまれました。

(2) 国民の金権腐敗政治に対する怒りを逆手にとって、政治改革＝選挙制度改革との論議にすりかえ。中選挙区制は制度疲労だと、それが政治の腐敗の原因のように宣伝し、小選挙区制の導入を強行しようとしてきました。

2年前の海部内閣の時には反対であり、選挙公約でも反対を表明していた社会・公明などの野党や、「連合」が政界再編と結びついて推進派に回ったことは重大でした。

しかし、PKO集中審議のうらで、妥協案づくりに水面下で画策する自社公民の党利党略に対して、また、連日のおこなった国会要請行動、各地域・中央での抗議集会（最終盤、愛知では毎週のように決起集会・デモで県民に訴えを）など国民の「小選挙区制よりも腐敗防止と不況対策を」の世論の急速な盛り上がりをつくりだし、ついに廃案に追い込みました。

(3) このたたかいのなかで、自民党内部の内部矛盾も表面化し、羽田・小沢グループなどが自民党を離党（内閣不信任案に賛成して除名）し、新党を結成、自民党に変わる連合政権の中心として役割を果たすといっていますが、彼等は金丸直系であり、金権腐敗体質はそのままです。

#### <まとめ>

PKOによる自衛隊の海外派兵反対のたたかい、佐川急便事件を頂点とする

金権腐敗政治打破のたたかい、自民党の一党独裁を保障し、憲法改悪を策動する小選挙区制阻止のたたかいなど、平和・民主主義を守るたたかいに果敢にとりくみを展開。緊急な国会要請行動や、決起集会など全国的な運動の高揚に貢献してきたことは大きく評価されます。

反面、小選挙区制の野望の先に見える「アメリカの新戦略」への積極的な加担の状況を考えれば、「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名や、原水禁世界大会に象徴される核廃絶のたたかいは、方針から見ても不十分であると認めざるをえません。

名古屋市長選挙、衆議院総選挙の2つの大きな政治戦がたたかわれました。選挙戦のなかで問われた切実な要求の実現へむけての、継続したとりくみの展開が革新の多数派形成をめざすたたかいにとっても重要となっています。

## 〔V〕組織拡大と共同の拡大のとりくみ

### 1. 10万人愛労連を展望し、組織拡大をめざすたたかい

(1) 10万人愛労連建設を粘り強く追求する方針と、全労連がかかげる「拡大3カ年計画」に対応した、愛労連の「拡大3カ年計画」の具体化を協議し、幹事会で確認してとりくんできました。

#### (2) とりくみの経過

①会議等……組織部会は、幹事10名で構成し、10月29日、11月13日、1月20日、3月22日に開き、1月20日の部会からは自治労連、医労連、愛高教の3単産組織部長も加わり「拡大組織部会」としてすすめてきました。

拡大の経過交流を中心とする単産組織担当者会議は、12月5日(12単産・23名)、6月5日(13単産・16名)に開き、情勢の交流をおこないました。5月22日～23日には、中小共闘会議が「拡大のための交流」をおこないました。

②組織拡大の結果……1992年6月末の組合員は、69,031名。3カ年計画の最終年度(1995年6月末)には、10万人に到達させることを目標に初年度(1993年6月末)の到達目標は、75,000人と決めました。

6月末の労働省調査に合わせた集計では703名増加し、69,734人となりました。

単産別では、昨年6月との比較で増加したところは生協労連、年金者組合、医労連、検数労連、JMIU、全港湾、郵産労、私教連、銀産労です。

愛労連結成からの純増減を前年比でみると91年6月、-4092人。92年6月、+293人。93年6月、+703人となります。

③新しく、この期間に未組織労働者を組織したところは、9組合・101人です。

・運輸一般豊橋合同支部昭豊運輸分会	19名	結成92年10月4日
・運輸一般豊橋合同支部豊月運送分会	17名	結成92年11月1日
・運輸一般尾三地域支部岡崎霊柩分会	3名	結成92年12月9日
・運輸一般尾三地域支部豊南分会	10名	結成93年1月14日
・運輸一般南部地域支部岩本運輸分会	9名	結成93年1月17日
・全国一般あいち支部クレディソン分会	2名	結成93年3月1日
・全日本金属(JMIU)日電精密支部	3名	結成93年5月31日
・全港湾名古屋支部愛知海運沿岸分会	33名	結成93年6月1日
・愛高教御津分会	5名	結成93年6月5日

(3) 全労連第2回地域組織全国交流集会在2月6日～7日、愛知県内で開かれ16地域から20人が参加しました。

例年、開催していた愛知の「地域労連研究集会」は7月10日～11日で準備をすすめてきましたが、国会解散、総選挙がおこなわれ中止しました。

(4) 拡大促進のために単産が作成する、拡大のための宣伝物には一定の助成をおこなうことを5月26日の幹事会で決め、執行しました。

## 2. 地域組織と地域活動の強化

(1) 地域労連では、「昭和区労働組合センター」が92年11月19日、準備会から正式結成(1015名)となりました。

産業別組合の単組、支部、分会が順次、地域労連へ加盟し、さらに組織化の前進による結集もあって千種名東、北、中、中川、南、守山、緑、西、瑞穂、東三河、尾中の11地域労連で、合計1544人の増加となりました。一方、

減少した地域労連もあり、純増は611人です。

(2) 地域活動強化のため地域ブロック単位におこなう交付金は、一般会計と組織強化資金から支出し、92年の50%増の交付をおこないました。

### 3. 専門部・大産別共闘・婦人協・青年協の活動

#### (1) 調査政策部

賃金労働条件実態調査を実施しましたが、集約できたのは運輸一般10、自治労連2、検数労連1のみでした。調査表が複雑なことや調査の意義などについて十分意思統一がはかられないまま実施されたことなどが、集約が進まなかった原因だと思われます。これらを教訓として次回の調査について検討していくことが必要です。春闘要求アンケートやハガキアンケートを実施し、その集約をおこないました。

「インフォメーション愛労連」は2カ月に1回程度の発行に終わりました。内容の充実も含め発行について検討していくことが必要です。

一時金回答情報は年末4回、夏季4回(予定)発行しました。

労問研と共催ですすめてきた調査政策学校は開催することができませんでした。調査政策活動の前進ために調査政策学校の成功をめざすことが必要です。

名古屋革新市政実現にむけて革新市政の会の政策委員会に愛労連事務局・単産・名地連などから加わりました。今後も愛知県政・名古屋市政の実態の調査・研究や要求づくり・政策化などをすすめていく必要があります。

ビクトリーマップ愛知版の作成準備は93春闘に間に合いませんでした。早急に愛知版を作成することが求められています。

部会は6回開催。内容的には不十分な点もありましたが、それなりにつっこんだ議論ができました。今後も2カ月に1回程度の部会開催が必要です。

#### (2) 教育宣伝部

愛労連ニュースの週間発行や、愛労連機関紙の月1回の定期発行をかけたましたが、名古屋市長選挙などへの事務局員の配置などで継続した発行を続けることはできませんでした。愛労連の動きとともに各単産や地域労連のたたかいが紙面に踊るようなニュース・機関紙、運動をリードできる紙面づくりによって、編集体制の強化と、単産・地域との連携強化が重要です。

### (3) 大産別共闘

①交通運輸部会は、a. 2月8日、部会を開き、交運をとりまく情勢—i. 軽油引取税の値上げ。r. 排ガス規制強化。h. タクシー運賃の改訂、規制緩和。n. 長時間労働と人員削減。h. 大企業優先の交通政策、等々を明らかにし、93春闘で社会的にアピールするための、「交通労働者自動車デモ」をおこなうことを決め、実行委員会を発足させました。実行委員会参加組合は、タクシー協、生協労連、建設一般、全運輸、うんゆ一般、全動労、検数労連、全港湾です。

b. 3月14日、自動車デモは新聞、テレビでも報道されたように、名古屋市港区藤前流通団地から、中区三の丸・中部運輸局まで車両118台、189人の参加でデモ行進しました。

c. 6月15日、運輸政策審議会答申による「規制緩和問題」学習会を女性会館で開きました。この学習会には、部会関係の組合員42人が参加しました。

②商業流通部会は、商サ連とともに、非課税限度額の引上げを求める署名運動を展開、スーパー前での宣伝行動などでは、パートの女性からも「本当にうれしい。がんばって」の声がかけられるなど積極的な反応も。愛知県、名古屋市への請願は、不採択となりました。また、例年の夏祭りも準備されましたが、台風の影響で中止となりました。

③愛知公務共闘は、2月22日に要求交流集会を開催。人事院中部事務局への要求・交渉や宣伝・集会など、公務員労働者の賃金闘争を展開するとともに、公務共闘独自に全県下を対象とした地域・ターミナル宣伝をとりくむなど春闘全体を大きく励ましました。

6月28日には、「1%から2%台」と報道され、一時金の削減も明らかとなった、93人勧での改悪策動に対し、怒りの早朝宣伝・昼休み決起集会、人事院中部事務局との交渉を展開しました。

④民間中小共闘会議は、a. 12月18日、第9回会議。各単産の「組織拡大3カ年計画」の報告をうけ、i. 分会を軸とした活動の定着化。r. 企業内、業種、地域、周辺業種における拡大。h. 民間、事業団それぞれの拡大目標と集中期間の設定等、目標と計画の促進、中小共闘としてできる事、しなければならないことについて議論しました。6単産参加。

b. 2月16日、第10回会議。93春闘のとりくみと、拡大月間の宣伝について協議しました。6単産参加。

c. 5月23～24日、第11回会議と拡大交流集会。中津川市で一泊二日の会議を開き、9単産・18人が参加しました。会議は、中心テーマを「産別と

しての組織拡大のとりくみと到達点」とし、イ. 未組織労働者への働きかけと宣伝。ロ. 産業内での多数派をめざすとりくみ。ハ. 中立組合、既存労組の単産への結集。ニ. 分裂、少数職場における拡大運動、等で討議を深めました。

⑤建設資材部会は、「愛知生公連」＝愛知県生活関連公共事業連絡会議の結成を展望し、当面、その準備会として、a. 93春闘で3月24日、各ゼネコンの支店前でビクトリーマップを使ったピラ配布をおこないました。

b. 3月25日、愛労連・建設資材部会の世話人組合（建設一般、愛建労）名で愛知県建設業協会に懇談会の申し入れをおこないました。

c. 愛知生公連（準）は、7月22日「国民本位の公共事業を考える」シンポジウムを開きました。

d. 93年10月1日に愛知生公連の結成をおこなう予定にしています。準備会参加組合は、建設一般県本部、うんゆ一般中部地区生コン支部、愛建労、全運輸5建地本、全建労東海地本・愛知県協です。

#### (4) 婦人協のとりくみ

婦人協議会は、①女性の働く権利を守り、働き続けるための社会的条件整備のとりくみ、②軍事費を削って、くらし・福祉・教育の充実のとりくみ、③平和と民主主義を守るとりくみ、④組織強化のとりくみという4つの柱で運動をすすめてきました。女性労働者の働く権利を守るために、労問研女性部会と共同し、愛労連以外の女性労働者とも交流会を深めてきました。また、介護（看護）休暇制度では新たに制度をかちとったところや、期間延長・手続きの簡素化など制度改善をさせるなどいくつかの組合で前進しました。育児休業制度でも現行法より前進した中味での協約化がすすんでいます。安心してとることができる育児休業法の改正の運動が求められます。

自衛隊海外派兵反対・PKO法案反対の運動では、短期間で1000名ものアピール賛同者が増えるなど県下の広範な女性と連携した取り組みができたことは大きな成果です。

これらの運動を前進させるためにも、女性労働者が多くを占めるパート労働者をはじめとする未組織労働者の組織化や各労働組合に婦人部の確立をする事がたいへん重要です。

#### (5) 青年協のとりくみ

青年協は、92年11月に総会をひらき、新役員体制のもとこれまで活動してき



ました。幹事会構成組織は自治労連・JMIU・医労連・国公・愛高教です。

組織の強化を最重点に、月2回の幹事会を重視し青学連・学習協などとも連携し、職場の状況・青年の要求などを話し合ってきました。

具体的には、1月のニューイヤーズパーティ、2月に4回とりくまれた労働学校と、1泊でとりくんだ春闘交流集会、3・4月は春闘、市長選を一体のものとしてとりくみ決起集会をもちました。いずれも人数的には20人程度で大規模なものにはなりませんでしたが、私教連・国労などの青年労働者とも交流することができ有意義なものでした。7月には憲法学習会と反核ライダーにとりくみ、ライダーを交え豊橋で青年部との交流会をもつことができました。

### ＜まとめ＞

「組織拡大・強化3カ年計画」は、全労連が決定した「200万全労連と600地域組織の確立」に対応して決めたものですが、同時に組織内外の期待に応えうる組織的力量を1日も早くつくり上げることを緊急の課題と、とらえたからです。

3カ年計画の初年度の拡大実績は、92年度と比較すれば大きく拡大しましたが、到達すべき目標からみれば、なお4200人未達成です。拡大計画2年目の到達目標は85000人です。この数字は、いままで経験したことのないものですし、従来の活動の範囲では実現させることはできません。

10万愛労連の実現へ、加盟単産がすでに方針化している組織拡大計画をやりあげるとともに、未組織労働者・未加盟組合に対する愛労連全体でのとりくみの強化が重要となっています。

## [VI] 愛労連の機能と活動・財政確立のたたかい

### 1. 組織強化・運営の改善について

事務局体制の強化へ、書記を1人採用しました。

組織強化にとって決定的に遅れているのが、地域労連の全体の水準アップです。各単産からの人的・財政的強化が緊急に重要なとともに、ローカルセンター・愛労連として日常の運動の把握、援助の不足を早急に克服する必要があ

ります。愛労連事務局の任務配置など体制の確立とあわせ、愛労連幹事会の有効的な機能発揮が大切です。

## 2. 財政の確立と93年度予算について

方針論議では、重点主義がいわれるが、予算編成に適格に反映されてはならず、執行上で適宜運用するということになり、補正が前提とされています。年金闘争など、財政的にも大きな位置を占めるたたかいもあり、予算編成と運動との緊密な連絡が必要です。

### [Ⅶ] 働く者の助け合い制度「愛知共済会」の拡大をめざす運動

(1) 1990年3月10日に設立し、4月1日から事業を開始した愛知労働者福祉共済会（愛知共済会）は、「基本共済」の会員が発足時7団体＝1002名でしたが、91年3月・27団体＝3539名、92年3月・34団体＝4347名、93年3月・38団体＝4510名に拡大されています。

このなかに、岐阜県労連の会員89名が含まれています。

(2) 火災・生命・交通・団結・医療・労災等の「任意共済」の加入口数は91年3月＝27920口、92年3月＝37654口、93年3月＝43558口に増加しています。

(3) 給付状況は、①基本共済（慶弔）91年3月＝201件・1076000円。92年3月＝573件・2943000円。②任意共済の給付は、92年3月＝12件・34608500円、93年3月＝35件・6170983円となっています。

(4) 愛知共済会も設立してから4年目に入り、単年度の事業計画だけでなく、中長期の展望を明らかにすべく、第4回総会において「中期計画策定委員会」（仮称）を設置することにし、共済会会員の拡大、体制、宣伝、事務処理機構等、全面的な検討を加えることにしています。